

平成30年度 事業計画

日本アルコール産業株式会社

平成30年3月28日

平成30年度の事業運営の基本方針

平成30年度は、中期ビジョン（2014～2018年度）の課題を仕上げるとともに、適正な営業利益を確保しつつ、昨年度に引き続き、安定供給基盤の強化に発酵、合成ともに取り組みます。

- ①アルコール事業は、発酵アルコールについては磐田工場の蒸留塔精製能力向上と省エネ設備の更新等を図り、『安全で安心な製品』の安定供給基盤を強化します。また、品質向上と製造コスト削減により競争力を強化しつつ、原料価格及び市場動向を踏まえ、営業黒字を確保します。合成アルコールについては販売数量の維持に努め、日本合成アルコール株式会社における設備更新を促進し、安定供給基盤の確立を支援します。
- ②関連事業は、手指消毒剤、土壌還元消毒用資材、肥料製品の販売数量の維持、拡大を図り、営業黒字化を目指します。

I. アルコール事業

- 磐田工場の蒸留塔精製能力の向上と省エネ設備の更新、鹿島工場の省エネ設備の強化等を計画的に実行し、安定供給基盤の強化を図ります。また、重要機器のメンテナンス力の向上に取り組みます。
- ・ 販売見込みに応じたサプライチェーンマネジメントを徹底し、3工場の最適生産とトータルコストの極小化を目指します。
- ・ 製品品質の管理を徹底します。
- ・ 原料貯蔵設備を効率的に運用し、アルコール原料の安定的調達と工場への安定回送を図ります。
- 合成アルコールは、販売数量の維持を図り、日本合成アルコール株式会社の設備更新を促進し、安定供給基盤の確立を支援します。

II. 関連事業

- アルコール製品は、手指消毒剤（キビキビ）の備蓄品の買い替え促進、新規備蓄品需要先の開拓、一般向け販売ネットワークの拡大を図り、販売数量の維持を目指します。また、除菌消臭剤の新製品の開発、市場化に取り組みます。

- 土壌還元消毒用資材（エコロジール）は、新たな生産拠点の整備等を踏まえ、販売数量の拡大を図り、事業基盤の強化を図ります。
- 肥料製品は、営業活動の一層の強化を図るとともに、輸出向け新需要の開拓、有機JAS適合資材による新市場の開拓により、営業黒字の定着化を目指します。

Ⅲ. 技術力の強化

- 製品品質の向上、製造コストの低減に向け、微量成分の分離技術の開発を検討します。
- 運転条件、プロセス変更等の検討のため、蒸留プロセスシミュレーション技術の活用拡大を図ります。
- 技術系社員人材育成プログラム、重要機器メンテナンス講習会の実施等を通じて、社員の技術力の向上を図るとともに、技術報告会等による技術の水平展開を図ります。

IV. 人材力の向上

- グループでの計画的な採用、教育訓練、研修、資格取得を通じ、人材力の向上を図るとともにグループ人事交流による人材活用を図ります。

V. 安定配当の継続

- 適正な営業利益を確保し、安定配当を継続します。

VI. 新中期ビジョンの策定

- 2019年度からの新中期ビジョンを策定します。

収支計画概要

以上の取り組みにより、平成30年度事業計画では、以下の目標の達成を目指します。

(単位:百万円)

売上高	28,148
営業利益	848
経常利益	851